

## 2023年11月定例会 総括質疑

2023年12月1日

静岡市議会議員

松谷 清

### 3. 学校給食における地産地消について

市政変革研究会「農と食」分科会の議論をもとに有機農業の積極的推進、そしてそれは9月補正予算において規格外、有機食材の学校給食への活用に繋がりました。素早さに感心しております。私は、オーガニック学校給食は有機米から始める必要があることを指摘してきました。有機米の導入についても量が確保されれば、と教育長の答弁がなされています。オーガニック給食に向かうためには、まずは地産地消から始めることが肝要です。

①難波市長は11月24日産業フェア開催式典で脱炭素社会と地産地消について語りました。食材には市産、県内産、国産、海外産などあります。地産地消の基本的考え方に基づき調査もされています。学校給食における地産地消はどのような現状であるか、伺います。

#### <教育局長 答弁>

「学校給食における地産地消の現状について」ですが、本市では、「第2期静岡市教育委員会食育推進計画」において、地域に根ざした食育の観点から、児童生徒が地元産の食材や食文化を知り、生産者への感謝や、食べ物を大切にすることを育むために、地産地消の推進に努めております。

その一環として、地元産の食材を使った「ふるさと給食」を毎月、さらに6月と11月には「ふるさと給食週間」として、年間合計20日程度実施しています。

本市学校給食の「地産地消率」は、この「ふるさと給食週間」期間中に使用する「にんじん」「じゃがいも」など、各食材を1品目と数え、全体の品目数から算出した割合としています。

令和4年度実績で、「学校給食センター」の地産地消率は、市内産が18%、県内産が44%、国内産が94%、また各学校で調理する「単独調理校」では、市内産が17%、県内産が39%、国内産が97%でした

②コメの地産地消に進めるために現状、コメ生産者の市内JAへの出荷量はどれくらいか、また水田活用について市はどのように考えているか。

#### <農林水産統括官 答弁>

コメ生産者の市内JAへの出荷量はどれくらいあるのかについてですが、市内生産者による令和4年産のコメ生産量は、水田台帳の作付面積417ヘクタールから推計すると、約2,000トンで、その内、JAへの出荷量は、約168トンあり、残りについては、生産者個人の販売や自家消費などです。

次に、水田活用をどのように考えるかについてですが、家計調査結果における、本市の一世帯当たりのコメの年間購入数量は、平成30年の89キログラムに対し、令和4年は71キログラムとなり、5年間で18キログラム減

少し、消費者のコメ離れが進んでいます。

また、作付面積も5年間で約40ヘクタール減少しております。本市では、農業経営の安定化と農地を維持するため、コメを作付する水田では、コメ生産の安定化、高品質化をすすめ、作付けを転換する水田では、消費者ニーズが高く、かつ、すぐに水田に戻せるサトイモやスイートコーンなどの高収益作物への転換をすすめ、水田活用を図っております。

③自治体の学校給食のコメを扱う県の学校給食会は、静岡市から要請があれば静岡市産のコメを学校給食に提供するために経済連と協議することを明言しています。県給食会は既に清水 JA から 22 年度 6tを購入しています。答弁にあった 168tあわせると 274tの静岡市産のコメが流通していることとなります。1 年間の米飯の購入量は 458t です。地産地消の観点から静岡市内産のコメを学校給食で提供する考えはあるのか、伺います。

#### <教育局長 答弁>

「市内産の米を学校給食で提供することについて」ですが、現在、本市の全児童生徒及び教職員など約 5 万人に対して必要となる米の総量は、年間約 458 トンです。

本市では、この必要量を毎年安定した価格で確保するため、その全てを公益財団法人静岡県学校給食会から購入しておりますが、令和4年度に、県給食会が取り扱った米の総量約 2,800 トンのうち、静岡市内産の米は約6トンとわずか 0.2%でした。

市内産の米の割合を増やすことは、本市が目指す地産地消の推進につながるものの、現時点では市内の生産量が他の自治体に比べて少なく、「必要量の確保」や「価格」の面から課題があると考えております。

④168tの静岡 JA への流通量は販売先が決まっているのではないかと心配する向きもあります。しかし、コメの学校給食利用が進めば、休耕田の利活用が進むと想定しているが、どのように考えるか、伺います。

#### <農林水産統括官 答弁>

コメの学校給食利用が進めば、休耕田の利活用が進むと想定しているが、どのように考えるかについてですが、コメの生産量は、国、県、市が公表する需要量予測に基づき、生産者 自らの経営判断により決定しています。

令和5年産静岡市産米の生産の目安は、最大で 2,195 トンで、平成 30 年産と比較すると 449 トン減少している状況です。また、農林水産省が算出した令和4年の10アール当たりの主食用米の販売収入は、全国平均で、11 万 8 千円であり、市内の休耕田を活用してコメ生産を行う場合でも、1 ヘクタール以下の小規模経営となることが多いと考えられることから、休耕田を利活用しても、十分な収益をあげることは難しいと捉えております。

こうした状況を踏まえると、市産米の学校給食利用が進めば、休耕田の利活用のきっかけになる可能性はありますが、大きく進むものではないと考えております。